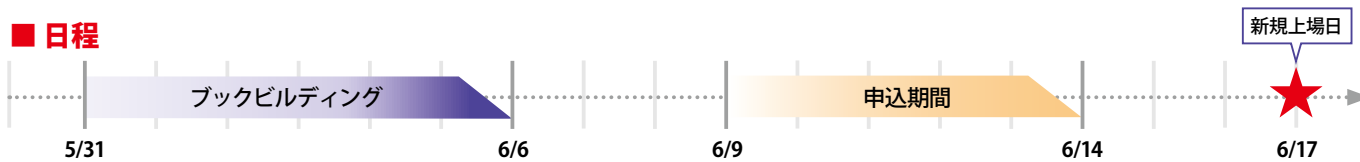


IPO銘柄 やまみ (2820・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
2820	100株	公募: 72.00万株 売出: 35.00万株 (OA16.05万株)	1,650円~1,690円 (11.3倍)	みずほ証券

■ 日程



中国地方中心に衛生面等で高水準の豆腐を販売

■ 事業内容

豆腐、厚揚げ、油揚げや、その関連製品の製造・販売を手掛ける。本社工場を広島県三原市に置き、中国地方での販売が中心だが、滋賀県にも関西工場を持ち、九州地方から東海地方まで広い地域で事業を展開する。機械化による作業員の手に触れる部分の限定、一部ラインの完全自動化、機械による過熱冷却殺菌などで、衛生面で高いレベルの製品製造を実現している。また、消費者の多彩なニーズに応え、多種多様な製品の製造・販売を行っており、使い勝手の良さを追求した「切れてる豆腐」「刻み揚げ」などの人気が高い。食品加工業、外食業など向けに、業務用豆腐の販売にも注力。おからにも注目し、クッキー、ドーナツ、ハンバーグなど、おからを使った製品開発も進めている。豆腐等製造販売事業の単一業態。

■ 特徴

高衛生レベルの生産では、14年10月に本社工場が豆腐業界で初めて、食品製造に関する一般的衛生管理の基準である「FSSC22000」を取得。食品業界で豆腐は価格など多方面での競争が激化しているものの、高衛生レベルの生産、価格の安さで差別化を進めている。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年6月期の非連結経常利益は前期比2.7倍の11億2,600万円を計画する。「切れてる豆腐」の販売が好調で、15年10月に行った関西工場の増築の効果も寄与する。原油価格の下落に伴い、原油由来の包装資材の価格下落で材料費率も例年より低下する見通し。

■ 定性分析

消費者の健康志向の高まりは追い風だが、豆腐製造ビジネスに高成長イメージは乏しい。IPOマーケットでは先端テクノロジー企業やネット企業が人気な一方、食品企業などは極端に不人気となるケースがある。地方企業であることもネガティブな材料か。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約21億円。JASDAQ上場案件としては荷もたれ感が意識される規模で、需給面に不安を抱えての上場となりそうだ。ベンチャーキャピタル保有株はなく、株式の多くは創業一族で保有されている。

(小泉健太)

■ 類似企業

やまみ (2820・JASDAQ)	予想PER11.3倍 (仮条件上限)
篠崎屋 (2926・東証2部)	予想PER —
旭松食品 (2911・東証2部)	予想PER16.6倍

■ 引受証券

みずほ証券、野村証券、SMBC日興証券、ひろぎんウツミ屋証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年6月期(実績)	7,748	26.4	348	90.5	293	46.6	179.5	19.0
15年6月期(実績)	9,084	17.2	419	20.4	349	19.1	164.8	25.5
16年6月期(会社予想)	9,558	5.2	1,126	2.7倍	710	2.0倍	149.4	—

※ 15年6月に株式分割(1株→20株)を実施。14年3月期、15年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年6月期	13,900	6,549	1,386	61	249.4	21.2	24.0
15年6月期	13,900	6,625	1,707	61	307.1	25.8	22.6

※ 14年3月期および15年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 YMコーポレーション	2,402,000	43.20
2 山名 徹	1,200,000	21.58
3 山名 清	1,109,600	19.96
4 山名 睦子	709,600	12.76
5 やまみ従業員持株会	48,800	0.88
6 山名 昭典	40,000	0.72
7 城本 浩司	20,000	0.36
7 池田 隆幸	20,000	0.36
9 土橋 一仁	8,000	0.14
10 林 辰男	2,000	0.04

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	山名 清
専務取締役	山名 睦子
常務取締役 営業本部長 兼 本社 営業部長	池田 隆幸
常務取締役 製造本部長 兼 本社 第二工場長	城本 浩司
常務取締役 事業戦略室長	山名 徹
取締役 管理本部長 兼 管理部長	林 辰男
取締役 関西工場長	土橋 一仁
取締役(社外)	恩地 良憲
取締役(社外)	七川 雅仁
監査役(常勤)	松浦 茂
監査役	濱田 隆祐
監査役	山脇 将司

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。